

15 調庸の貢進とカツオ付札木簡..... 34

16 駿河国正税帳と益頭郡財政..... 36

17 小川駅と東海道..... 38

第1章 自然

1 高草山の成り立ち―海底からの隆起..... 6

2 古志太湾の出現と志太平洋の生い立ち..... 8

3 断崖絶壁の岩石海岸となだらかな砂礫海岸..... 10

4 焼津の動物..... 12

5 焼津の植物..... 14

6 焼津の魚介類..... 16

第3章 中世

18 益頭庄と方上御厨..... 40

19 益頭庄地頭北条時政..... 42

20 守護今川氏と焼津..... 44

21 小川湊の繁栄..... 46

22 法永長者にかかわる人々..... 48

23 戦国大名今川氏と焼津..... 50

24 花沢城の落城と当目合戦..... 52

25 家康の五カ国支配..... 54

26 総検地と小田原攻め..... 56

27 有徳人の館・小川城..... 58

28 多彩な器物が物語る館の暮らし..... 60

第2章 原始・古代

7 農耕のはじまり..... 18

8 古墳の出現と展開..... 20

9 古墳時代の集落と耕地..... 22

10 群集墳の広がり..... 24

11 副葬品あれこれ..... 26

12 ヤマトタケル伝承と焼津..... 28

13 古代の氏族と国造..... 30

14 益頭郡の成立と郡家..... 32

第4章 近世

29 中村氏支配下の焼津..... 62

30 太閤検地と横田村詮法度..... 64

31 近世焼津の領主たち..... 66

32 幕領と藩領..... 68

33 近世初期の検地..... 70

34 大覚寺村の検地..... 72

35 新田開発と請所新田..... 74

36 年貢とその推移..... 76

37 村役人と村政..... 78

38 入会地相論の展開..... 80

39 山野相論の展開..... 82

40 用水の普請と相論..... 84

41 東海道と焼津の村々..... 86

42 近世の漁業..... 88

43 海運と海難..... 90

44 村の出来事..... 92

45 ムラとイエ..... 94

46 近世人の一生..... 96

47 近世焼津の文化..... 98

第5章 近代

48 町村制の実施―旧村から新町村へ..... 100

49 地租改正と地価修正..... 102

50 近代学校の成立..... 104

51 鉄道敷設―焼津藤枝間軌道線・東海道線..... 106

第6章 現代

70 焼津の農地改革..... 144

71 地方自治制度―焼津の市制成立..... 146

69 戦争犠牲者..... 142

68 海軍航空隊藤枝基地と軍徴用焼津漁船..... 140

67 学童集団疎開と学徒勤労動員..... 138

66 戦時下の経済統制..... 136

65 近代焼津の文化..... 134

64 缶詰産業の形成―マグロとミカン..... 132

63 昭和恐慌期の農漁村の状況..... 130

62 昭和恐慌期の地方自治..... 128

61 焼津の金融活動..... 126

60 大正期の農業と農家経営..... 124

59 水産業の発展―沖合漁業・沿岸漁業..... 122

58 大正デモクラシー下の教育..... 120

57 大正デモクラシー期の地方自治..... 118

56 焼津町の米騒動..... 116

55 小泉八雲の焼津..... 114

54 農業の発展..... 112

53 水産業の組織化と漁船の動力化..... 110

52 日清・日露戦争の日々..... 108



# 1 高草山の成り立ち—海底からの隆起

## 堆積

焼津市の盟主、高草山の岩石は玄武岩、凝灰岩質砂岩層からなる。玄武岩はナトリウム、カリウムといったアルカリ成分が多い特殊なもので、同時代の太平洋岸ではきわめて珍しいとされる。溶岩は枕状構造をなすものが多い。これは海底で噴火直後に急冷してできたと解釈される。また、泥岩からは、目に見えないほど小さい浮遊性有孔虫（プランクトン）が検出され、やはり、海底堆積を裏付ける。また、この有孔虫の種類からその時代は約一八〇〇万年前の新生代第三紀中新世早期末から中期初と推定された。

## 隆起

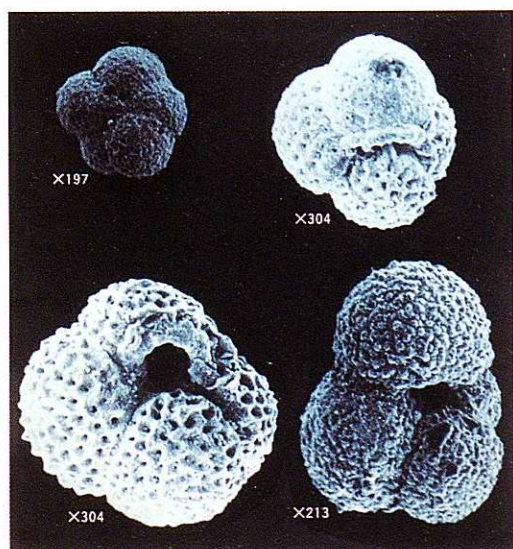
これらの岩石は第三紀鮮新世（約五〇〇万年）に入ると、海底から隆起した。その際、東方からの圧力によって、若く上位にある岩石が横にすべってより古い岩石の下にもぐり込んだと考えられている。この隆起運動によって竜爪山（静岡市葵区）、真富士山（静岡市葵区・清水区）など、高さ一〇〇〇mを超える急峻な山脈が形成された。その延長が高草山に続くわけである。高さ五〇一・四mの高草山の急な斜面はこれと関連してできた。



④三輪部層 泥岩・凝灰岩互層、高角度で西方に傾く。(焼津市坂本)



③枕状溶岩(小) 海底斜面に噴出した溶岩は、海水に冷され表面が固まる。さらに、内部のまだ固まらない溶岩が割目からしぼり出され、海水にふれて枕状の形で固定する。枕の直径によって、大・小に区別される。(焼津市浜当日海岸)

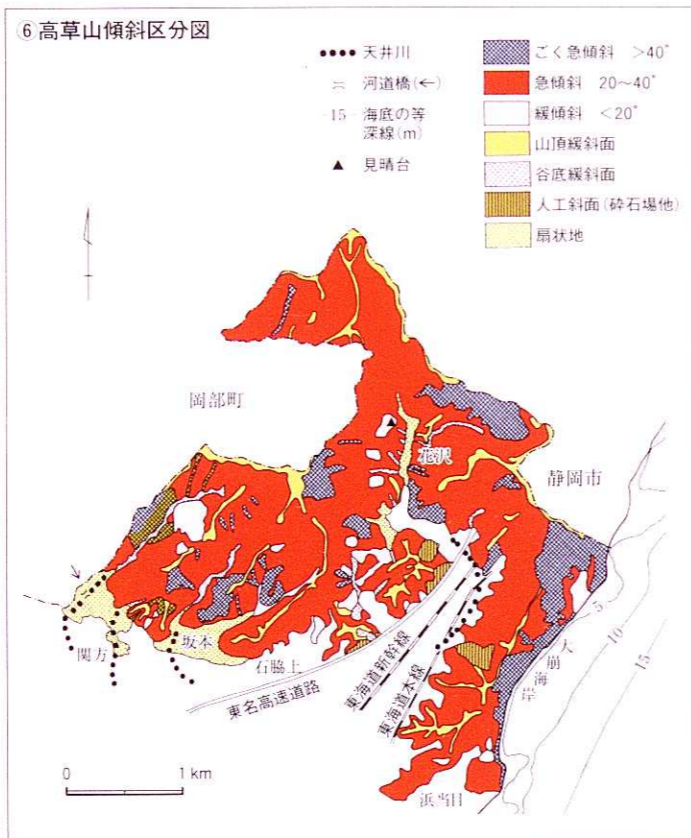


⑤浮遊性有孔虫 花沢部層より。

\*Masako IBARAKI and Ryuichi TSUCHI「Planktonic Foraminifera from Silt Intercalations in The Takakusayama Alkali Basalt Complex of The Ryūso Group, Shizuoka, Japan」『Reports of Faculty of Science, SHIZUOKA UNIVERSITY』Vol. 16.



⑦高草山(←)の急斜面 花沢の南側林道より。

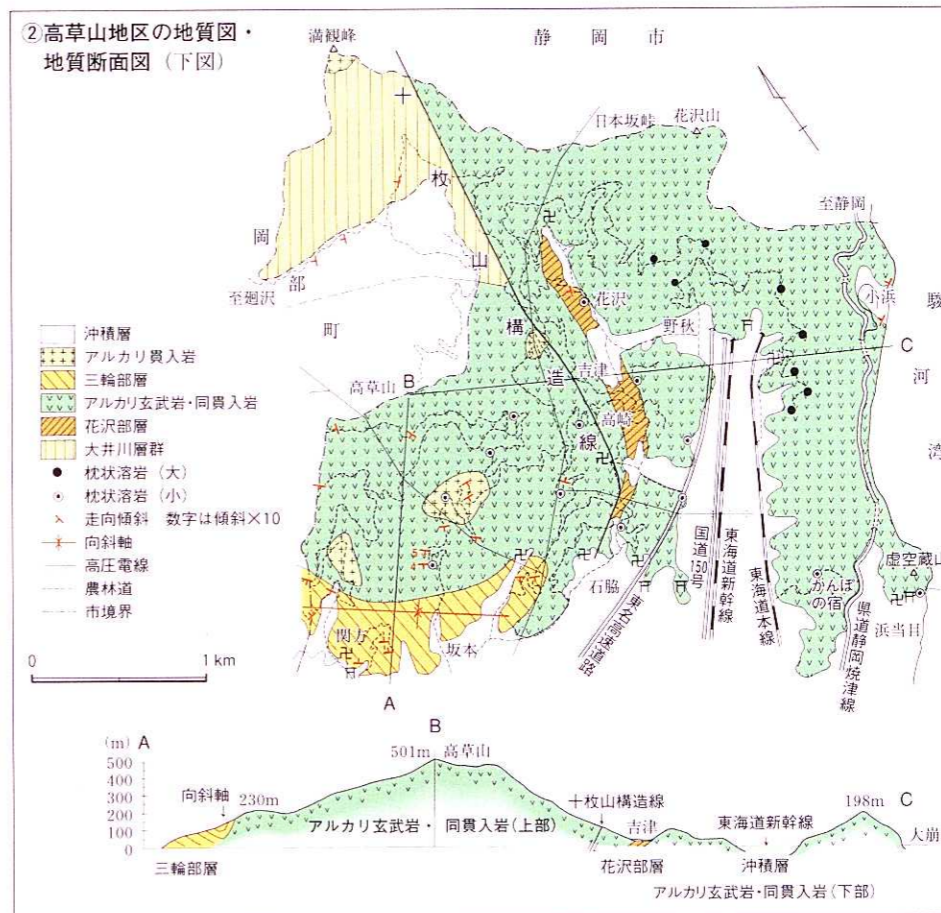


\*昭和56年発行国土地理院1:25,000土地条件図「静岡」より作成・加筆。

①高草山を構成する岩石・地層の層序表

前期中新世中期〜早期末	高草山累層	三輪部層	海底泥岩・砂岩・凝灰岩 西南に傾斜、向斜構造あり
		アルカリ玄武岩(上部)	海底溶岩
		-----十枚山構造線-----	-----逆断層線-----
		アルカリ玄武岩(上部)	海底溶岩
		花沢部層	海底泥岩(一部砂岩・凝灰岩) 西に単傾斜
		アルカリ玄武岩(下部)	海底溶岩
	大井川層群	藤枝市・岡部町 当市では満観峰周辺に分布	

\*鮫島輝彦・伊藤通玄「大崩海岸地域の地質—山崩れ災害の地質学的背景」『静大地学研報』三巻、および杉山雄一他「静岡地域の地質」地域地質研究報告50,000分の1図幅を参照し作成。





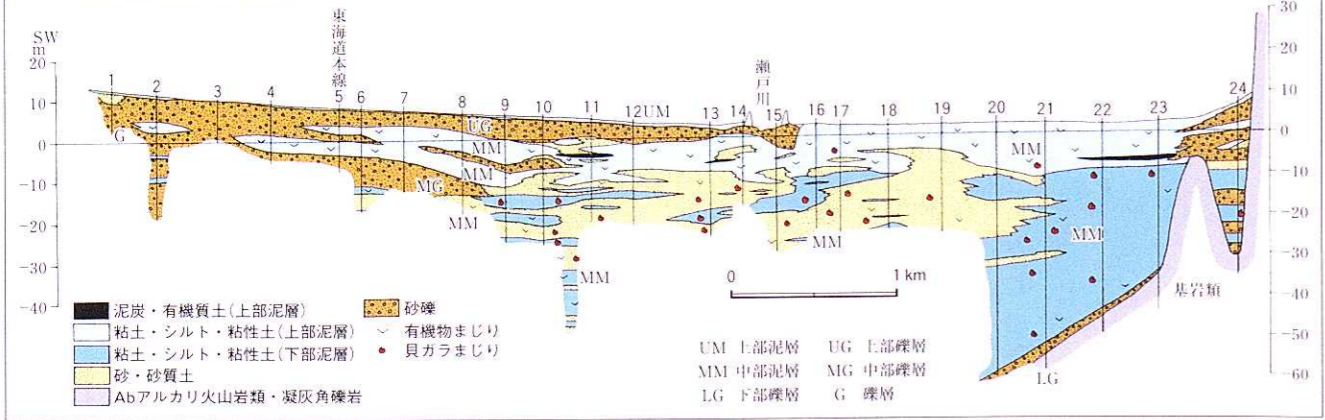
## 2 古志太湾の出現と志太平野の生い立ち

**海面変動**  
 ウルム氷期Ⅱの寒冷期（約二万年  
 前）には海面が今より約一二〇mも  
 低く、大井川・瀬戸川もそれに応じて深い谷底を  
 作って流れていた。その後の温暖化で海面が上昇  
 に転じ、約六〇〇年前にはほぼ現在の高さになっ  
 た。

**縄文海進**  
 この時海水は低所に進入し、できた  
 入江は、藤枝・岡部・焼津の山々の  
 麓に達した。この入江を古志太湾と呼ぶ。山麓部  
 では山、谷がそのまま水没した例がみられる。縄  
 文前期頃なので縄文海進と呼ばれる。

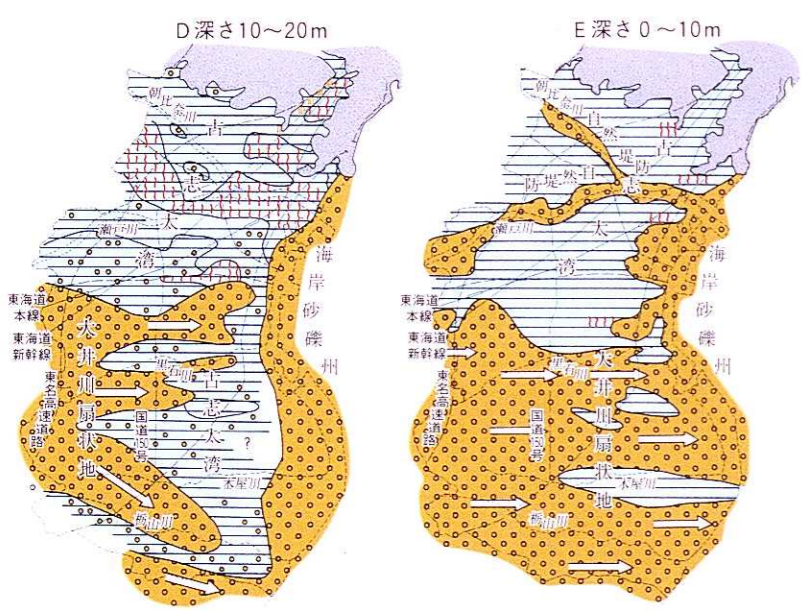
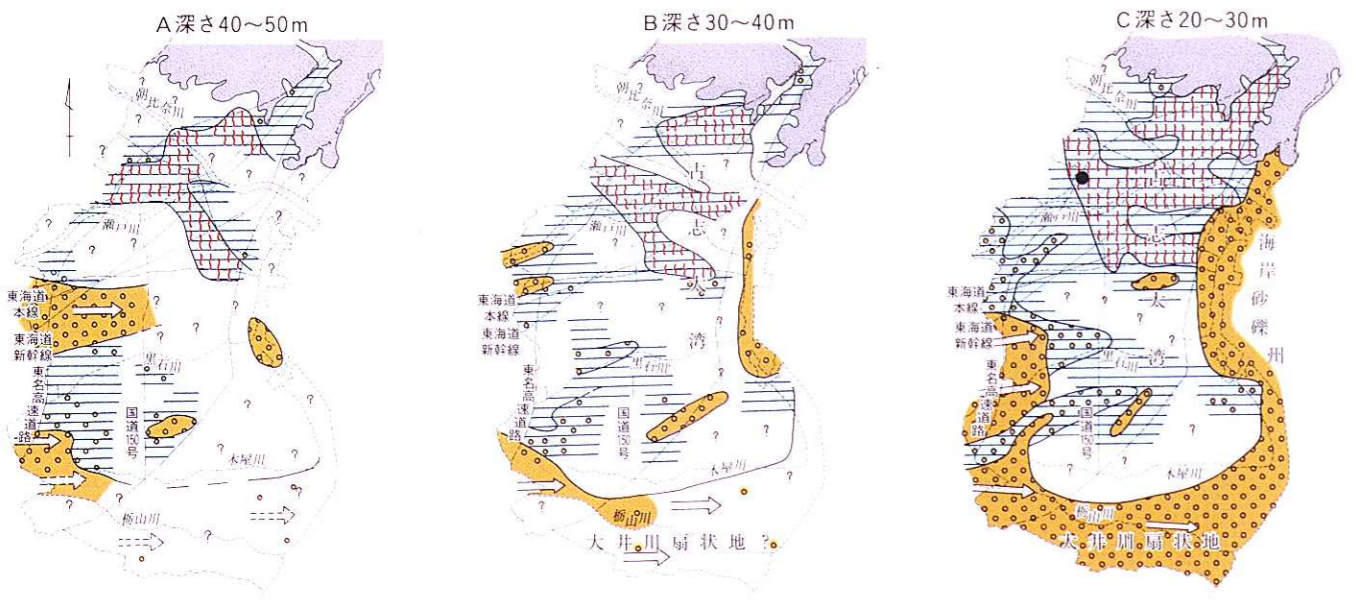
**入江への** その後は流入する河川の運搬砂礫や  
**砂礫流入** 泥土によって入江は狭まる一方だっ  
 た。なかでも、流域が広大な大井川からの砂礫な  
 どの堆積はとくに活発だったらしい。ボーリング  
 資料の深さ別の情報からそれをさぐる事ができ  
 る。焼津地域の南半に大井川の砂礫が進出した兆  
 しは深さ五〇〜四〇mで現れるが、深さ三〇〜二  
 〇mで顕著になり、それ以後（以浅）拡大進出を  
 続けた。小川地区の古墳時代の水田、集落、古代  
 の宿駅はそれを物語る。一方、瀬戸川・朝比奈川  
 での進出は深さ一〇m以内で、その規模も小さく、  
 流路沿いの幅のせまい部分だけである。

⑤ 新幹線地質断面図と地盤型

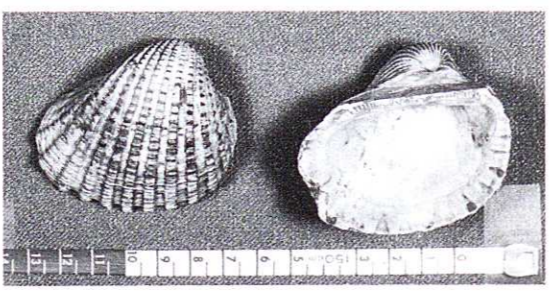


\*『大井川流域の防災地学上の諸問題』付図に加筆・修正。

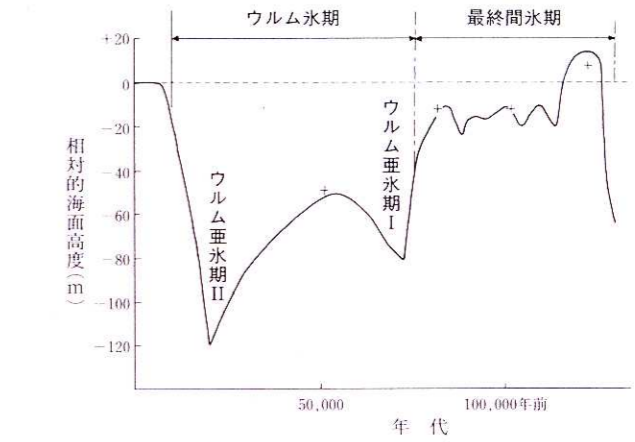
⑥ ボーリングの深度別にたどった古志太湾の消長



- 泥炭
- 貝殻まじり
- 推定川流
- 礫・砂
- 泥・礫
- 泥・砂
- 山地
- 海岸線・河川
- 道路
- 鉄道
- 市境界
- 年代測定資料採集点 (ボーリング)

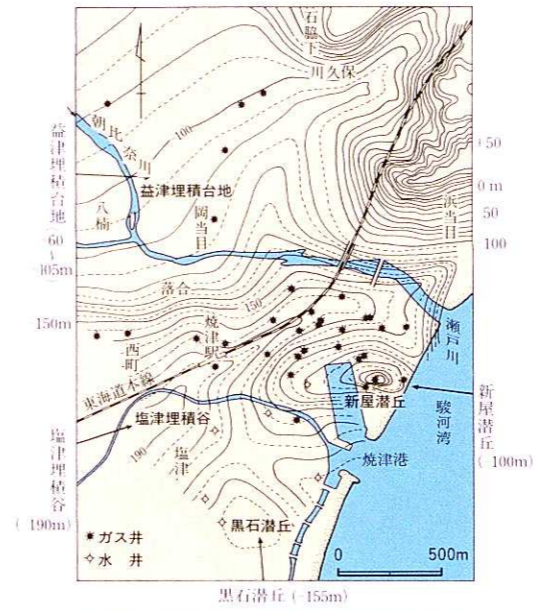


⑦ ハイガイ化石 ⑧ 巻貝化石 図6のCのボーリング地点、地下23mで出土。スケールは1cm刻み。⑧の上段はカワアイ、中段はヘタナリ、下段はイボウミニナ。

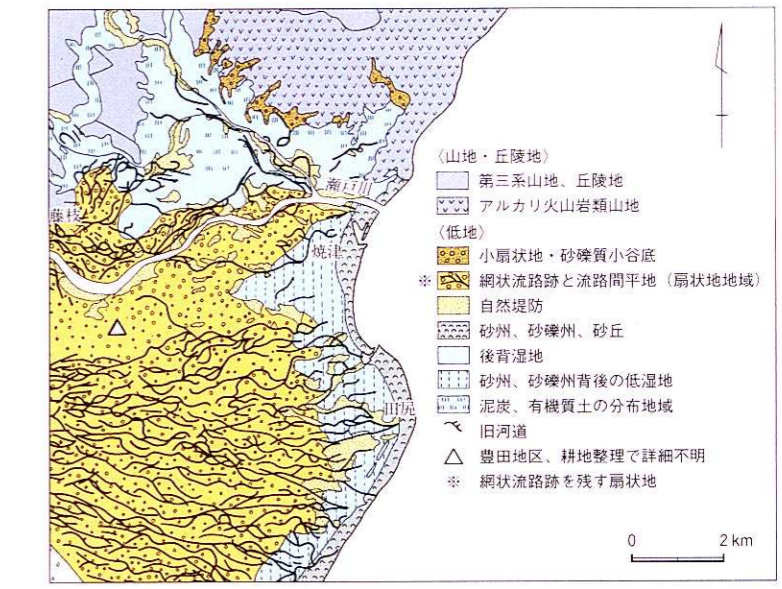


① 海面変動図 (13万年前以降)  
 \*米倉伸之「第四紀の海面変化とその予測」  
 『百年・千年・万年後の日本の自然と人類』より。

② 大井川扇状地の旧流路模様 写真右下に見えるのが大富小学校 (焼津市中根新田)。  
 \*国土地理院発行米軍撮影空中写真承認番号平12部複、第194号



④ 焼津・東益津地区の平野下の凹凸地形  
 \*伊田一善「静岡県焼津市地下の第四系」  
 『第四紀研究』1巻4号を改変。



③ 大井川扇状地旧流路網 左下白地は大井川河川敷。  
 \*門村浩「大井川下流部平野の土地条件と災害」  
 『大井川流域の防災地学上の諸問題』に加筆。



### 3 断崖絶壁の岩石海岸となだらかな砂礫海岸

#### 大崩の断崖

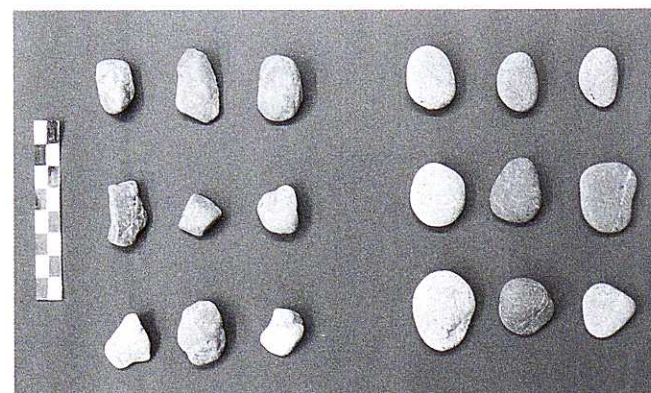
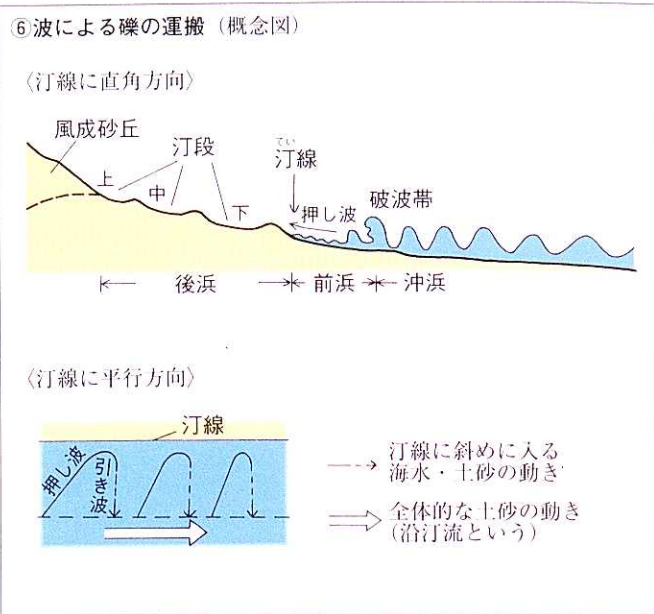
高草山の海に面した部分で、玄武岩溶岩が打ち寄せる波の攻撃で足下に凹み（フッチ）を作り、上の岩が不安定化、崩落したもの（海食崖）である。なお、沖合一五m深まで、幅七五〇mの海食台と思われるゆるやかな海底が続く。もし海食台であれば、約六〇〇年前の縄文海進以後、海面の高さが安定してから海食崖が陸側に七五〇m後退したことになる。年あたりの後退距離の〇・一二mは、日本各地での火成岩海岸の後退距離（〇・一m、貝塚爽平氏による）と近似する。

#### 砂礫海岸

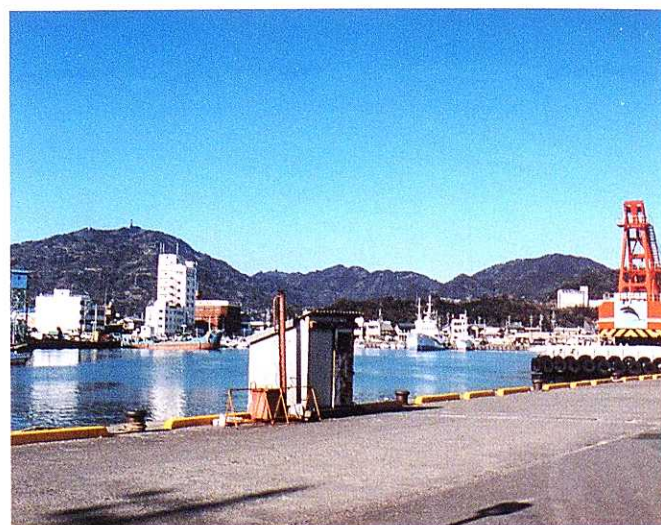
浜当目から南はすべてこれに属する（港湾設備＝人工海岸を除く）。礫は拳大以下で煎餅や碁石の形（丸く平たい）にそっくりである。低平で弓なりの海岸線が特徴である。礫は大井川のものに酷似するので波によって北に漂流したものであろう。海岸沿いには汀段と呼ばれる高まりがあり、これと同種の高まりが内陸の砂礫州（砂堤列、当市内に二・三列）にもある。かつての海岸の名残と思われるので、海岸線が沖合に進出した例証であろう。



⑦海浜礫 平たく丸い。円孔の直径は16mm。(焼津市田尻海岸)



⑨瀬戸川の礫(左)と田尻海岸の礫(右)の比較 ともに大きさ16~32mm。左のスケールは1cm刻み。



⑧人工海岸(焼津漁港) 海岸が垂直な岩壁で囲まれる。



⑪旧砂堤(↑)と離岸堤(合)(焼津市田尻北)



⑩砂礫海岸と汀段(⑥を参照)(焼津市石津)



5 海岸の分類図



4 焼津漁港の岩壁と防波堤(人工海岸)

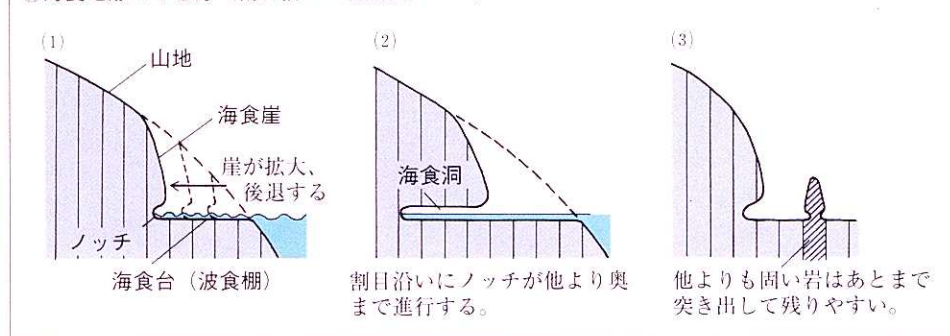


①海食崖(←)・海食洞(・)・フッチ(海食崖の水際が凹んでいる部分)(焼津市浜当日海岸)



②たけのこ岩(焼津市小浜 たけのこ岩トンネル下)

③海食地形の成り方(割目沿いの切断図)





# 4 焼津の動物

焼津市の動物の生息地は高草山を中心とした丘陵地、瀬戸川・朝比奈川・栃山川などの中小河川、浜当日から和田浜間の海岸地帯、市の南に広がる田園地帯と変化に富んでいる。そこに生息する動物も多様である。

昆虫類は植物相に影響を受けるものが多く、焼津では南方系のチョウや甲虫がよく見られる。高草山系だけでなく河川や神社にある雑木林も昆虫類の貴重な生息場所になっている。

淡水魚類は六〇種程確認され、貴重種としてホトケドジョウやメダカ、シロウオなどが生息している。

両生類の生息種数は多くないが高草山周辺で、アズマヒキガエルやモリアオガエル、瀬戸川でカジガエルなどが見られる。

鳥類はおよそ一七〇種が観察されている。県内で観察されている半数を焼津市でも見ることができ、海岸ではカモメ類のほか田尻地域ではシギ・チドリ類が見られる。また、高草山周辺では里山の鳥類がよく観察される。ワシ・タカ類も比較的よく見られ、冬季にはオオワシも観察される。哺乳類の観察数は多くはないが山間部でイノシシやノウサギ、タヌキ、ニホンリス、アカネズミなどが観察される。



⑩オオワシ 翼開長2mを超える大型の美しいワシ。オホーツク海沿岸で繁殖し日本には冬鳥として飛来。1～2月頃大崩海岸から浜当日、時には市街地上空で観察される。



⑧イソヒヨドリ 海岸の岩場などに生息し、美しい声でさえずる。市街地のコンクリートの建物などを利用して繁殖している。姿、声ともに美しい鳥。



⑨ハマシギ 河口部から中流部の水田や水辺でよく観察され、春と秋の渡りの時期や冬季にも観察される。数羽から時には100羽ほどの群が見られるが、近年は数が減少している。



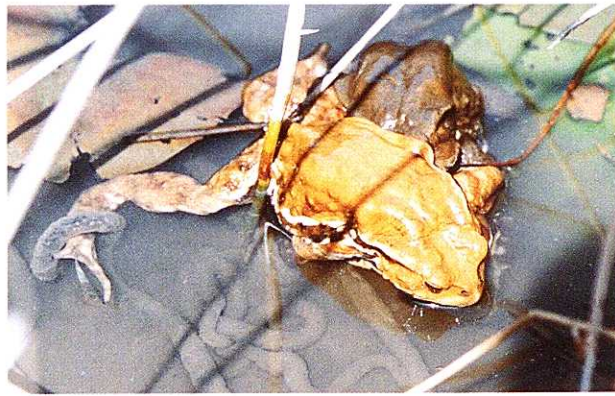
⑫タヌキ 里山の小動物として親しまれ、高草山を中心に見られる。最近では住宅地でも確認される。



⑪ウミウとヒメウ 写真右のやや小型の3羽がヒメウ、他はウミウである。浜当日から大崩海岸の断崖をめぐらや休息の場としている。海で餌を捕っている。



⑭シロマダラ 全国的に少ないヘビ類で、高草山で確認されている。トカゲやヘビ類を捕食するが、餌が少なくなってきた環境では減少している。自然環境の保全が急がれる。



⑬アズマヒキガエル ガマと呼ばれる大型のカエルで高草山で見られる。自然環境悪化で減少している。雌雄の比率が極端でメスが少ない。ひも状の卵塊を生むことが特徴。



④ベーツヒラタカミキリ 赤褐色の平たい体をした夜行性の種で、その生態ははっきりしていない。1980年の調査で焼津市に生息していることが判明した。



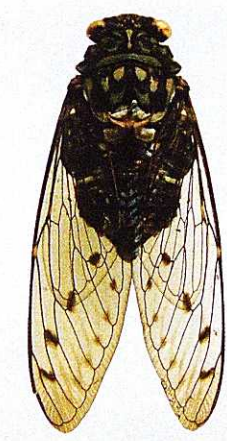
③ヨツスジトラカミキリ 黄色に黒の縞模様のあるカミキリムシで、高草山以外の県下では大変稀な種類である。6～8月にかけて高草山で見られる。



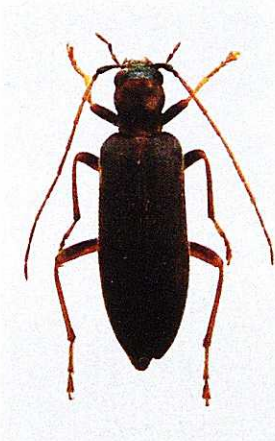
①アユカケ 海と川を行き来するカジカの仲間である。アユなどの小魚を捕食する。河川が汚染され、全国的に少なくなっている。



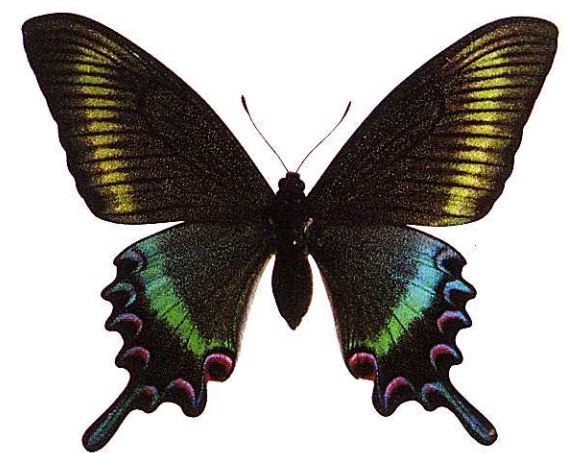
②ホトケドジョウ 小型のドジョウで県版レッドデータブックでは絶滅危惧種1A類に指定されている。高草山山麓のごく限られた範囲で見られる。



⑦ミンミンゼミ 緑色の体に透明な羽を持つセミで、人の気配に敏感。内陸部に生息するセミだが、不思議と海岸に近い高草山には多く生息している。



⑥ハイロカミキリモドキ 小型な甲虫で、上羽は薄い緑銅色をしている。成虫は海岸地帯で見られる。本個体は大崩海岸の灯火に飛来したもの。



⑤ミヤマカラスアゲハ 羽が緑色に輝く美しいチョウ。春型は後羽の白黄色帯や赤紋が鮮明で、とくに高草山に産する個体は県産の美麗種として知られている。



# 5 焼津の植物

焼津市は南北に長く、北部は海底火山の噴火でできた標高五〇一・四mの高草山を中心とする丘陵地帯、南部は志太平野の一部で田園地帯と住宅地が広がる。焼津市全体では、およそ一四〇〇種の植物がある。

焼津市は植物区分では常緑広葉樹帯に属し、カシ、クス、シロダモなどが繁茂している。高草山一帯は開拓され、茶畑、ミカン畑、スギ・ヒノキなどの人工林、クリ・コナラなどの落葉樹、竹林等で覆われている。山頂付近の樹間や草原にはエイザンスミレ、キスミレ、コシノコバイモ、ヤマドリカブトなど貴重な植物がある。山裾にはオドリコソウ、ヒトリシズカ、ヤマブキの群生を見ることが出来る。

浜当目、和田浜ではハマゴウ、ハマヒルガオ、コウボウムギなど、海浜植物が見られる。

市街地や平野部では帰化植物が多く見られ、セイタカアワダチソウやアメリカセンダングサ、ヒルガオ科の仲間が広範囲に繁茂している。街路樹はヤマモモ、イチヨウ、ポプラ等が植えられている。木屋川や黒石川等市内を流れる小河川の堤にはソメイヨシノが多く植えられ、市民の憩いの場所になっている。



⑨フユノハナワラビ 山地に生育する小型の冬緑性草本。胞子葉は栄養葉より長く、穂は円錐状。高草山一帯で見られる。冬季には多少葉に赤みを帯びる。ハナヤスリ科



⑧ヤマトリカブト 山地の林内や林縁に生える多年草。高草山山頂付近で数株見ることが出来る。毒草の代表でとくに猛毒のアルカロイドを含んでいる。キンポウゲ科



⑦イカリソウ 大崩、花沢などの山地に自生している。花の形が船の碇に似ているので碇草と名付けられた。古くから薬草として知られている。メギ科



⑫ツルクサ 道端、畑地等でごく普通に見られる。花弁が鮮やかな青色でよく目立つ。万葉の時代より多くの人に親しまれ、歌にも読まれている。ツルクサ科



⑪ヒガンバナ 人里近い山野に群生する多年草。秋の彼岸のころ花が咲くので和名は彼岸花と名付けられた。葉は光沢のある深緑色で厚く、有毒植物である。ヒガンバナ科



⑩クス 秋の七草の一つ。山野に普通に見られる。根からとったでんぷんは葛粉とし、茎からの繊維は葛布として利用されている。マメ科



⑬アブラギリ (別名: ドクエ) 花沢山に自生している。江戸時代、野秋・花沢等に起こった毒住訴訟で有名な木で、実から油をとる。利用価値が高く、広く栽培されていた。トウダイグサ科



⑬ハマヒルガオ 代表的な海浜植物の一つで、砂地に生えるつる性の多年草。葉が厚く、つやがある。和田浜でよく見られる。ヒルガオ科



⑭ハマボウ 海辺や河口等の湿地に生える落葉低木。7~8月、黄色の花が1個ずつ咲く。海岸線が整備され数が減少した。アオイ科



⑭コウボウムギ 海岸の砂地に普通に見られる多年草。地中の葉鞘の繊維を筆に使ったといわれ、書道の達人弘法大師にちなんで名付けられた。カヤツリ科



③ヒトリシズカ 光沢のある葉の間に白い花穂(おしべ)が目立つ。静御前の舞姿にたとえてこの名が付けられた。高草山一帯で見られる。センリョウ科



②ヤマブキ 細い枝に黄色い花を多数つける。高草山一帯の山裾に自生している。太田道灌の逸話で有名な花である。バラ科



①エイザンスミレ 高草山山頂付近の木陰で見られる。葉の切り込みが細かく花の色は淡紅紫色が多い。比叡山で発見されたのでこの名が付けられた。スミレ科



⑥オドリコソウ 花の形が笠をかぶって踊る人の姿に似ているのでこの名が付けられた。高草山山麓の坂本付近で見られる。シツ科



⑤コシノコバイモ (絶滅危惧種) 木陰の草原で見られる、クロユリ属の小型の花。高さは20cmぐらいで、高草山に自生する個体数は極めて少ない。ユリ科



④キスミレ (絶滅危惧種) 九州地方を除けば自生する個体数は少ない。大陸系遺存植物と呼ばれるもので、高草山は自生地として有名である。スミレ科



## 6 焼津の魚介類

水産都市焼津の魚といえば、全国一の水揚げ量を誇るカツオ、そしてマグロ類、サバ類と続き、これら遠洋・沖合の漁獲物は市の産業経済を支える重要な魚類である。

一方、焼津市が面する駿河湾は最深部で二〇〇m以上に達する日本一深い湾で、黒潮の影響も受け暖海性から深海性のもので多種多様な魚介類が生息している。北部の大崩海岸は岩礁域で、アワビ、サザエ、イセエビ、マナマコ等が潜水や刺網漁により漁獲される。瀬戸川河口部以南の海岸は砂浜や漁港となり、キス、マハゼ、クロダイ、マアジ等が生息し、釣りの対象として市民に親しまれている。田尻沿岸には定置網があり、アジ類、イワシ類、サバ類などの浮魚類を主体に、タチウオ、ブリ、クロマダコ、マダイ等が漁獲される。

海岸からすぐ沖合の海は急深で、夜間、深所から浮上してくるサクラエビやタチウオ等の魚が行われている。深海底では籠・筒漁により、水深三〇〇m付近でアカザエビ、ムラサキスタウナギ、水深七〇〇m付近でエゾイバラガニ等が漁獲される。また、駿河湾深層水取水施設では、深海から汲み上げる深層水の管路のなかにさまざまな深海生物が迷入している。深海生物は未知の部分が多く、今後の調査研究が期待される。



⑦深海の籠漁 焼津沖の深海で籠・筒漁を行っている（長兼丸）。



④定置網漁獲物 マアジ（もっとも多い魚）、シロサバワグ（中央）、カイワリ（中央の平たい魚）、ヒラソウダ（中央右）、ゴマサバ（中央左、右下）、アカカマス（下左）、ヤマトカマス（上、右）など種類が多い。



⑤タチウオ 昼間は水深100m付近の深所にいるが、夜間は浮上し岸近くにも回遊する。一本釣り、定置網で漁獲される。



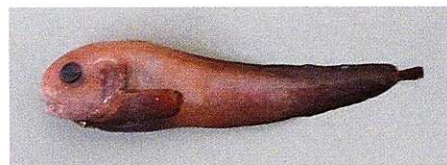
⑧エゾイバラガニ 通常のガニより脚が2本少なく、タラバガニの仲間。地元では「ミルクガニ」と呼んでいる。



⑨ムラサキスタウナギ 目が退化しており、大量の粘液を出す。食用や皮革加工用に韓国に輸出されている。



⑥アカザエビ 水深300m前後の海底に穴を掘って生息、底曳網やエビ籠漁で漁獲される。通称「手長エビ」、英名「スキャンピ」と呼ばれる。県水産技術研究所では深層水を利用して養殖する研究を行っている。



⑩深層水取水（水深687m）に迷入した寒海性魚類 駿河湾の深い所は水温が低いため、本来は北方の寒い海に生息する魚たちが入ってくる。左から、ニュウドウカジカ（全長31.9cm）、ザラビクニン（全長9.2cm）、アラスカビクニン（全長14.9cm）。



②冷凍カツオ水揚げ 焼津漁港では、遠洋カツオ一本釣り船や大型の海外まき網漁船から、船上で凍結されたカツオが大量に水揚げされ、市内の加工場で鰹節や生食用などに加工される。



①カツオ 小川魚市場に水揚げされた生鮮カツオ。夏から秋には、黒潮に乗って駿河湾にも入ってくる。腹側の黒い縦縞は、遊泳中には薄く、釣り上げられた後に鮮明となる。



③マサバとゴマサバ 小川魚市場では、近海で操業するまき網漁船や棒受網漁船からサバ類が多く水揚げされ、鮮魚のほか黒はんぺん、鯖節などに加工される。サバにはマサバ（左）とゴマサバ（右）の2種があり、ゴマサバはその名のとおり体側に黒斑があるので区別できる。近年、マサバの資源減少のためゴマサバの割合が高くなっている。

